2022 年 3 月 31 日

公益財団法人日本城郭協会 ２０２１年度事業報告

１.「城郭文化振興に寄与した個人及び団体を顕彰する事業」を創設

城郭文化のさらなる振興のための新たな事業として、城郭文化振興に寄与した個人・団体を顕彰する制度『日本城郭協会大賞』を創設した。

2022 年 2 月に予備審査を行い、12 組の候補者をノミネート、3 月 24～25 日の本審査会で「大東市・四条畷市」を第 1 回日本城郭協会大賞に、「番場の歴史を知り明日を考える会」を日本城郭文化振興賞に選び、春風亭昇太氏を特別賞に選出した。

第 1 回の受賞者の発表は 2022 年 4 月 6 日を予定している。

２.「会員増強計画」―会員増強への取り組み強化・推進―

協会の事業や活動を支えてくれる会員の増強は協会の運営の基本活動である。2020 年度までの一般会員 784 名・法人会員 6 社から、2021 年度は一般会員 898 名・法人会員 8 社への増員を果たした。さらには、各城郭とのネットワーク構築を目的に城郭会員制度を設立し、初年度は 23 城郭が入会した。結果、会員総数は 2021 年度末で 929 会員となっている。

会員募集のために主催・参加する催事において入会募集活動を行った他、ホームページ・ツイッター・当協会の公認サイト「城びと」等への情報発信を積極的に行った。

また、新規入会者特典としていた 100 名城・続 100 名城スタンプ帳の在庫が無くなったため、新たにスタンプ帳を収納できるケースを作成し、特典として配布を開始した。

また、城郭会員新設に伴って会員規則の見直しを行い、「日本城郭協会会員規則」を改訂した。

３.「日本１００名城スタンプラリー」･「続日本１００名城スタンプラリー」の　運営および PR 強化

「日本１００名城スタンプラリー」･「続日本１００名城スタンプラリー」は新型コロナウイルス感染症の流行により自粛を余儀なくされ、2021 年度の達成者は日本 100 名城 365 名、続日本 100 名城 199 名に留まることとなった。しかし本事業が多くのお城ファンに依然として支持されていることは、新型コロナウイルス感染症の流行が下火になると参加者が急増していることからも明らかである。

2021 年度は新型コロナ対策で発生した登城中止やスタンプ設置場所閉鎖などの情報を、迅速にホームページ等でスタンプラリー参加者に告知するとともに、スタンプラリー参加者へのマナー喚起ポスターを作成し各城郭に配布した。

また、ドラクエウォークとのコラボレーションが実現し、ドラクエウォーク内のミニゲームとして日本100名城を巡る企画が開始した。この企画と連携する形で「日本100名城スタンプラリー」のWEBサイトを開設し、PRを実施した。ゲーム参加者による100名城への訪問数は11月開始後3月末まででのべ472,587回に上り、日本100名城WEBサイトへの総アクセス数は3月末までに約39,000(内ゲームからの流入数約は16,000)となっている。

4.「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」の強化・継続

「城の自由研究コンテスト」は第20回となった今回から、小学生の部と中学生の部に分けて作品を募集し、応募総数482作品の中からそれぞれ10作品の優秀作品を表彰した。表彰式は今回から優秀作品展を行う「お城EXPO」の会場で併催し、社会的認知度のさらなる向上を図った。

「親子見学会」は、5城で開催する計画を立てたが、新型コロナウイルスの流行により開催を断念した。

5.「お城ＥＸＰＯ２０２１」の開催

2016年に第1回を開催した「お城ＥＸＰＯ」は評価も高く、2021年度も12月にパシフィコ横浜で「お城ＥＸＰＯ2021」として2日間にわたって開催し、前夜祭を含む3日間で13,624名の来場者を迎えた。

当協会は引き続き4者による主催実行委員会に参加。事務局に加えて理事・学術委員に協力いただいた。

また、各地の自治体等より「お城EXPO」の出張開催の要望があり、2021年度は滋賀県長浜市、東京都葛飾区、広島県福山市、愛知県常滑市で「出張!お城EXPO」を実施した。

6.「日本城郭検定」及び「EXPO検定」の強化・充実

日本城郭検定は6月と11月の2回開催した。それぞれ仙台・東京・名古屋・大阪・姫路の5会場で合計2,899名の受験者を集めて開催した。

毎回「お城EXPO」会場で行っている「EXPO検定」は「日本城郭検定プレゼンツ・城好きNo1決定戦」と銘打って実施した。

7.[会報・HP]等広報活動強化

当協会の公益事業活動を広く社会に周知させるとともに、会員への情報サービス機能や新会員加入促進を目的に、会報「城郭ニュース」を発行・配布した。記事についても各城郭の学芸員による続100名城の紹介や、当協会学術委員による寄稿などを掲載し、会員に向けた城郭に対する知識の提供に努めた。

ホームページ・SNSについては、会員・その他の城郭愛好家向けに各城郭からの提供された情報を適時掲載・リツイートを行ったことと、当協会の公認サイト「城びと」との連携を積極的に行ったことにより、当協会ホームページへのアクセスも90万超を記

録し、また 9,540 名のツイッターのフォロワーを確保している。

８.「熊本城復興義援金など災害にあった城の復旧支援」

2016 年から行ってきた熊本城復興支援のための「熊本城復興義援金」は、5 年間実施してきたが、大天守が復元されるなど熊本城の復旧のメドがたったと判断し 2021 年度をもって終了した。

９.「学術委員会の活動強化及び学術委員」の拡充

学術委員会の活動は、お城 EXPO・出張!お城 EXPO の講演や「日本城郭検定」の問題作成・監修、当協会会報への寄稿、自治体等からの講演依頼対応とともに、新たに立ち上げた「日本城郭協会賞」の審査員などを委託した。

10.「テレビ・新聞・出版物への監修・助言」の体制強化

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応した。また、「日本 100 名城・続日本 100 名城ガイドブック」の増刷に伴う監修や、「城カード」の企画・発行に伴う監修を行った。「城カード」については、現在 22 城で展開しており、2021 年に 15,334 枚を販売した。

監修・活用を行う際の手持ち資料として、日本 100 名城の写真のストックの整備及び、協会の資産である井上宗和氏による資料・写真等の整理に着手した。

11.「日本城郭協会史」の編纂

当協会の公益財団法人化 10 周年に当たり、1956 年発足以来の当協会のあゆみを記録し、当協会が城郭学及び城郭文化の普及発展に貢献してきた足跡を確認、今後の発展の基本資料とすることを目的に編纂に着手した。2022 年 6 月刊行を予定している。

12.諸規定の整備

当協会の会計処理方法の明文化を目的に「会計処理規則」「寄付金等取扱規則」を制定した。また、個人情報の取り扱いについて「個人情報保護規則」を制定し、併せてセキュリティ対策として個人情報のクラウド管理を導入した。